

広報部の活動内容

1、パネル作り

- **元校長 橋口先生にインタビュー**
- **茶園記録を読む**

茶園開墾

【なぜ、今ある土地に茶園畑を作ったのか？】

- 自然あふれる田舎で空気もよく茶園畑を作るのに最適な場所だったから。
- 茶園畑を作る計画を立て、役場と相談することが決まった。そして、職員も大いに賛成してくれ、開拓場所(今の茶園がある土地)を提供してくれることになったから。



【なぜ、お茶を作ることになったのか？】

- 昭和9年、黒崎中学校が青年学校のころ陸軍中尉であった富田先生という方が、この村の耕地を増やし、特産物を作ることが村の生活の安定につながると考えた。このような理由から、大首開拓地が開かれ、現在まで続く黒崎中学校茶園ができあがった。

それは、山の一角を開墾するという地道な作業から始まった。



受け継がれた過程

- 戦時中から始まった茶園活動は戦争が終った今でも糸売っている
- 当時は春と秋、合わせて4回茶園整備が行われてた。また茶摘みは2回行われた。
- 昭和17年5月に黒崎中学校敷地内に製茶舎が建てられ当時の生徒が茶を採りみるなどの活動を行っていた。
- 昭和50年頃は生徒と先生だけで200kgほど収穫していた。
- 摘んだお茶を付近の学校の先生や町役場の方々や地域の方々に買ってもらっていた。
- そこの収益は茶園の費用や部活動などの支援に使っていた
- 平成25年には茶摘みと茶園整備2日半程作業していた。
- 生徒、先生、地域の方々に加え長崎市内から20名ほど茶摘み体験に来ていた。そのころは60kgほど収穫していた。
- お茶は卒業生近くの方施設の方々に保護者のみなさんに買ってもらう文化祭や茶園黒崎中学校の修理費用に使っていた。



現在の茶園



<現在の状況>

外海中学校は、長崎で唯一、茶園活動を行っている学校です。昔に比べ、生徒数は少なくなっていますが、保護者の方々や地域の人々が、茶園活動に参加してくださっています。製茶は東そのまゝでいただいています。

<学校行事として残っているのはなぜ？>

外海中学校の前校長である橋口先生にインタビューをした際、逆に私達にこのような質問を投げかけられました。この質問の答えを私達なりに考えてみました。

- 85年間続いている茶園を私達の世代で終わらせたくないから。
- 私達で作った歴史が、またお茶を地域の人々に味わってほしいから。

このような答えが出ました。皆さんはどのように考えますか？

2、ロゴ作り

- 全校生徒にデザインを募集
- その中から 2 つを選ぶ

